

「世界都市・東京を支える情報センターを目指して －2020 年とその先に向けた提言－」

第 27 期東京都立図書館協議会は、訪日外国人の増加、ICT の利活用の進展といった社会的背景や、来館利用者数の減少傾向等の都立図書館が抱える課題を踏まえ、今後都立図書館が目指す姿は「世界都市・東京を支える情報センター」であるとした上で、
「サービス」「広報活動」「利用環境」の 3 つの側面から提言を示した。

1 東京を支える新しい都立図書館のサービス

〈基本的な考え方〉

- ・首都東京の広域的図書館である都立図書館に重要なのは「東京に関する情報の提供（発信）」である。
- ・都立図書館の特徴の 1 つであるレファレンス機能について、引き続きその強化を図るべきである。
- ・都立図書館は、国内外の情報をつなぐ「ハブ」機能を強化し、関連機関と一体となって「世界都市・東京を支える情報センター」を目指すことが望ましい。

〈実践の方向と内容〉

- ・東京及び日本の文化発信の活動に取り組むとともに、東京 2020 大会に向かう東京の活動の記録を次世代並びに世界に向けて伝える。
- ・学校におけるオリンピック・パラリンピック教育や伝統文化教育等に対する支援を行い、次世代を担う人材の育成に寄与する。
- ・外国人利用者に対する支援の充実を図る。

2 広報活動の刷新

〈基本的な考え方〉

これまでの広報から一步踏み出し、新たな視点や手法を加えた広報活動を積極的に展開することが必要となる。

広報活動の前提となる、「伝えるべき都立図書館像」は、以下の 3 つと考えられる。

- ・質の高いレファレンスサービスを提供する都立図書館
- ・空間を活用し、幅広い知的活動に貢献する都立図書館
- ・東京 2020 大会の情報を始めとした、「東京」情報を国内外に広く提供・発信する都立図書館

〈効果的な取組〉

- ・統一的なイメージのもとでの広報
- ・「顔の見える」広報
- ・戦略的な広報
- ・利用者とのつながりによる広報

3 新たな利用環境の構築

〈基本的な考え方〉

日々生み出される多様な情報を、時代の要請に合った効果的な方法で、都民はもとより国内外の人々に活用してもらうための利用環境を整える必要がある。

〈段階的な取組〉

第1期（2020年まで）

東京に集う人々のアクティブな学びや多様な活動を支える、また、東京の価値を情報・資料の点から国内外に広める、という2つの視点からの環境整備を進める。

第2期（2020年前後）

第1期の検証を踏まえ、多様なニーズに対応するための設備、フロア構成、ゾーニングなどについて検討する。

第3期（2020年以降）

「東京」に関するあらゆる資料・情報が効率的に入手できるようにすることで、新たな「東京」の魅力や価値を発見することに貢献する図書館、また、ICTを活用し、紙とデジタル、リアルとバーチャルの双方の利点を生かした図書館を実現する。